

4. 専門教育への連携協力

2005年度については、次の科目授業の実施に当たり、附属学校園の協力を得た。

1－(1)．「人間関係行動学実験実習AⅠ」(文学部専門科目：前期)

日 時：2005年6月8日・6月15日・6月22日、いずれも午前9時～正午

1－(2)．「人間関係行動学実験実習AⅡ」(文学部専門科目：後期)

日 時：2005年11月9日午前9時～正午

(以下、両科目共通)

対 象：幼稚園の年長児・年中児

受講生：文学部人間関係行動学専攻2回生以上29名

内 容：人間の行動を広く科学的に研究するための基本的な方法を習得するという科目の目的に沿って、附属幼稚園で「観察」と「検査実習」を行った。検査実習では、園児一人一人に学生が一对一で検査計画にそってインタビューし、葛藤場面でのどのような解決をするかなど子どもたちに尋ねた。実習の目標は、以下の3点にまとめることができる。①子どもたちを観察する方法について学ぶ。②子どもたちについてインタビューし課題を与えて回答をえる技術を学ぶ。③観察や検査結果の分析を通じて子どもたちの生態を理解する。

担当者：麻生 武(人間文化研究科)

2－(1)．「人間関係行動学実験実習BⅠ」(文学部専門科目：前期)

日 時：2005年6月16日午前8時50分～10時40分(朝の会～2時間目)

対 象：小学校1年月組(担任：日和佐尚教諭)、5年月組(担任：廣岡正昭教諭)

2－(2)．「人間関係行動学実験実習BⅡ」(文学部専門科目：後期)

日 時：2005年11月10日・11月17日・11月24日午前8時50分～10時40分(朝の会～2時間目)

対 象：小学校1年月組(担任：日和佐尚教諭)、4年月組(担任：都留進教諭)、5年月組(担任：廣岡正昭教諭)、5年星組(担任：阪本一英教諭)、6年月組(担任：岩井邦夫教諭)

(以下、両科目共通)

受講生：文学部人間関係行動学専攻2回生以上27名

内 容：本科目は、人間関係行動学領域の研究に関わる方法について、実践的、臨床的な方法や技法を学ぶことを目的としている。小学校観察実習の目的は、①教育実践の共感的理解(小学校における活動の展開について共感的に理解する)、②研究倫理の理解(授業観察に必要なマナーと責任、態度を体験的に理解する)、③研究技法の習得(観察技法、即時的及び詳細な記録の作成、分析、考察の技術を向上させる)の3点にある。小学校において朝の会から2時間目まで、学級での活動の様子について試行的にフィールド観察を行った。各活動について、受講生は詳細な記録を作成し、活動の特徴の分析を行った。特に、人間関係行動学実験実習BⅡにおいては、3回の観察を通して見えてくる子どもなりの授業参加や、受講生自身の見方の変化などについても省察した。両科目とも、以上をレポートとし、授業者に還元した。

担当者：本山方子(文学部)

3. 「基礎演習Ⅰ」(文学部専門科目(学部共通科目):前期)

日 時:2005年6月(1回)

対 象:幼稚園全園児

受講生:文学部1回生22名

内 容:本科目は、少人数のゼミ形式で、大学で学ぶための一般的なスキルを身につけることを目的としている。特にこのクラスでは、「“学の基礎”としての観察」について扱い、その一環で、子どもの行動を「観察」するとはどういうことか、体験学習を行った。

担当者:麻生 武(人間文化研究科)

4. 「発達臨床学特論Ⅰ」(大学院人間文化研究科博士前期課程:前期)

日時・対象:

小学校2年月組(担任:金津琢哉教諭)参観等 2005年5月30日午後1時40分~3時

幼稚園全クラス参観等 2005年6月16日午後1時~2時40分

参加者:大学院人間文化研究科人間行動科学専攻生18名

内 容:本科目は、①育児・保育現場において発達を捉えることの意味と今日的課題を理解すること、②育児現場を例に、支援のあり方と展開について、実際に即して理解すること、③現場支援における倫理について理解すること、を目的とし、育児・保育・教育現場での当事者の発達とその支援に関して、基礎的な考え方と支援の展開を中心に論じるものである。そこで、幼稚園や学校における保育・教育の実際を知り、そこでの観察に基づく議論の仕方を学び、さらに、教育現場における発達臨床上の今日的課題について知ることを目的に、幼稚園及び小学校を訪問した。両日とも、保育や授業の観察に加え、幼稚園・前田正代副園長及び小学校・中谷内政之副校長からそれぞれ両現場での支援の実際と課題についてご指導いただいた。

担当者:本山方子(文学部)